

# 第7期「科学技術・イノベーション基本計画」のポイント

## <現状認識>

### 科学技術・イノベーションを巡る情勢

- 基礎研究から社会実装までの加速度的短縮と「科学とビジネスの近接化」
- 破壊的技術を巡る実装競争の激化
- 科学技術・イノベーション政策の「安全保障化」と戦略技術の囲い込み
- AIと科学の融合による研究開発パラダイムの転換
- 国際的な科学技術人材の獲得競争の激化

### 我が国の課題

- 研究力の低下  
トップレベル論文数指標の国別ランキング下落：  
4位(2000年初頭)→13位(2021-2023年)  
博士号取得者数が横ばい：1.5万人（2022年度、米中の1/5以下）
- 研究開発投資の伸び悩み  
官民研究開発投資額：20.4兆円（2023年、米中の1/4以下）

## <目指すべき未来社会>

- 科学技術・イノベーションの強力な推進により、新たな技術領域における成果創出が進展し、持続的な経済成長が確保され、更なる科学技術・イノベーションを生み出す好循環を作り出し、様々な社会課題解決への道筋が提示されるとともに、国家安全保障が確保されている「豊かで安全・安心な社会」
- 誰もが心身ともに「豊かで」「活力があり」「希望にあふれた」人生を送ることができる、一人ひとりの多様なwell-being にチャレンジし、実現できる社会

## <第7期基本計画の方針>

### 科学技術・イノベーション政策の転換

- 科学研究と社会実装の一体的推進
- 国家安全保障政策との有機的連携の強化  
(デュアルユース技術を含む先端技術の開発研究等の推進)
- 科学技術外交を国家戦略として位置付け

### 科学技術・イノベーション推進システムの刷新

- ヒト：世界標準の人材システムの構築  
(高度な専門性を持った人材が行き交う環境を整備)
- カネ：挑戦とイノベーションを支える投資と成果の好循環
- モノと情報：知と価値を創出する共用基盤の高度化  
(モノの「共有」という価値観、開かれた研究・実装インフラの形成)

### 科学技術を国力の源泉に

イノベーションを生み出すための日本全体の社会システムの再構築を目指す

トップレベル論文数指標

世界第3位へ

第7期基本計画の6つの柱

### 官民の研究開発投資の拡充

政府目標：60兆円※

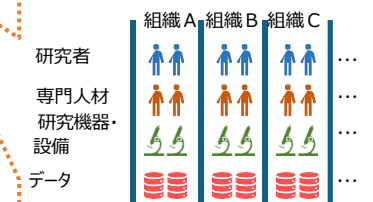
官民目標：180兆円

※従前の考え方に基づく45兆円に、多様な財源や政策ツールを加えた目標。

- ① 知の基盤としての「科学の再興」
- ② 技術領域の戦略的重点化
- ③ 科学技術と国家安全保障との有機的連携

- ④ 産学官を結節するイノベーション・エコシステムの高度化
- ⑤ 戦略的科学技術外交の推進
- ⑥ 推進体制・ガバナンスの改革

現状の課題として、「縦割り」・「自前主義」・「デジタル転換の遅れ」



### 推進システムの刷新

「レイヤー構造」・「分野・組織を超えた連携」・「データ基盤整備」

